

しらきぬびょう  
白絹病

病原菌名 *Sclerotium rolfsii*

発生条件

病原菌の生育適温は30℃付近であり、施設栽培、露地栽培とも夏季高温時に発生する。病原菌は多種の作物を侵し、罹病植物上および周辺に多数の菌核を形成してこれで越冬する。本菌は湛水中や土壌深部では生息できない。



発病株

地際部に暗褐色のくぼんだ病斑をつくり、土壌表面から茎にかけて白色絹糸上の菌糸がまといつく。やがて白色～茶褐色の直径1～2mm程度の菌核が多数形成される。